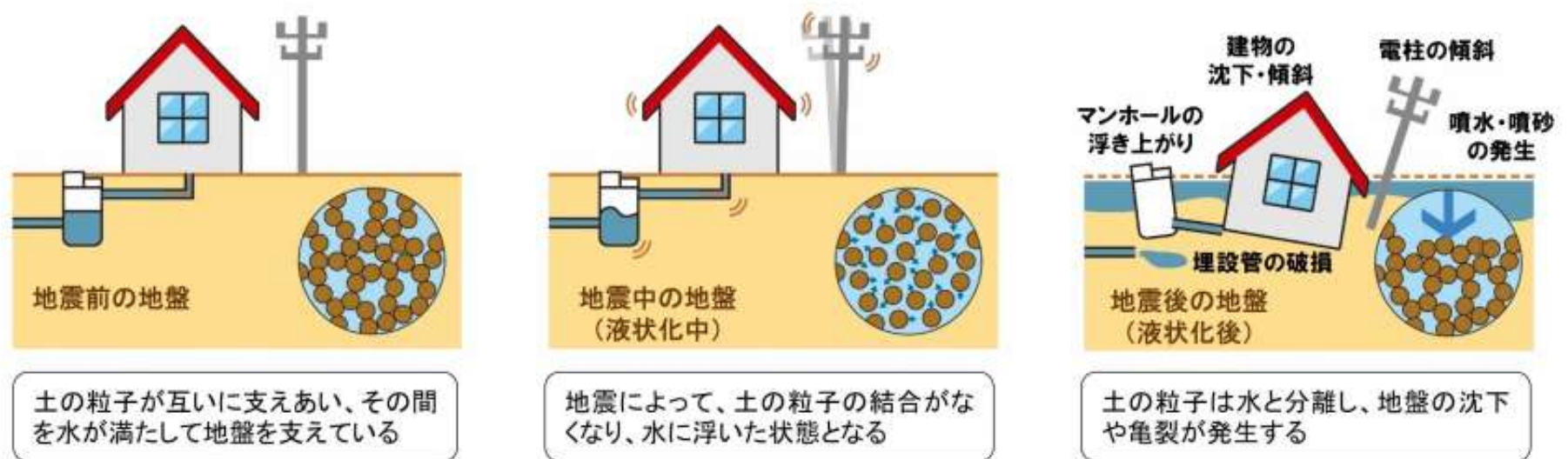


夢洲の問題点は防災②

●液状化対策はほんまに万全？

- ・万博協会は津波や高潮の高さを5.4mと想定。盛土をして11mのかさ上げをしているので大丈夫と言っています。また、浚渫土砂や粘土質の土砂（粘性土）で埋め立てているから液状化は起こりにくいと言っています。
- ・しかし、浚渫土砂は川底をさらった土ですから水を含んでいます。地震で揺れたら水が出てくるのではないのでしょうか？また、盛土や埋め立て地など粘性土を後から入れた場所では、土砂の粒子同士の結びつきが断絶されてしまい、軟弱地盤になる場合があります。

【液状化現象とは】



図は国土交通省HP盛土・宅地防災から拝借

●津波対策はほんまに万全？

かさ上げ部分に津波が到達した場合、水分量が増えて比重が軽くなり、盛土だけ流される可能性があります。(24.9.7住吉の会学習会でフリージャーナリスト 木下功さん)

●もし護岸が沈下したら？

阪神・淡路大震災では、淀川左岸の堤防が液状化で**3m沈下**、六甲アイランドでも護岸が**3m沈下**、さらに神戸港の護岸は平均**約2m沈下**した。しかし、夢洲では護岸の沈下が十分に考慮されていない。もし、護岸が3m沈下すれば、津波はさらに大規模に内陸部に遡上し、万博・IR施設も大きな被害をうけるはずである。

(「夢洲開発のリスク」田結庄良昭 神戸大学名誉教授)